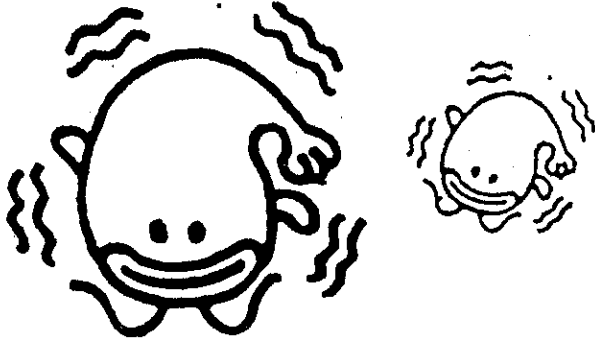


# 衣川台なまず通信

第12号



発行 衣川台自主防災部  
発行日 2008年2月28日

## 消火班アンケート結果報告

【消火班】

平成19年9月に実施したアンケートの結果をお知らせします。

- ◆ 回答所帯数 135軒 (全所帯の37%)
- ◆ 保有消火器数 0本13% 1本59% 2本24% 最高は4本(1所帯)
- ◆ 消火器の定期点検の実施(有効期限等のチェック) 52%
- ◆ 消火器の取り扱い方を知っている 93%
- ◆ 衣川台防災訓練で、消火器取り扱い訓練を体験した 54%
- ◆ バケツリレーを体験したことがある 54%
- ◆ 消火用に貯水している 49%(内訳 風呂水57% バケツ・ポリタンク35%)
- ◆ 家周辺に「燃えやすいもの」を置いていない 75%
- ◆ 調理中に来客、電話があったとき、まず火を消す習慣がついている 97%

以上の結果から、次の点が今後の課題と考えます。

- ① 消火器「0所帯」への保有啓発。
- ② 「消火器の取り扱いを知らない」約7%の所帯への体験実施。
- ③ バケツリレー訓練の継続。
- ④ 家庭での消火用貯水の啓発。
- ⑤ 家周辺に可燃物をできるだけ置かないことの啓発。



又、付記された要望として

- ① 身体が不自由なので、出来るだけ近くで、消火器訓練の機会が欲しい。
- ② 班単位での消火訓練がよい。
- ③ 消火器購入・更新・の幹旋の希望。

等がありましたので、自主防災部として、対応を検討していきます。

## 一年を振り返って

防災部事務局長 軸丸 真行

平成19年度も間もなく幕を閉じます。

防災部の一年間、そのポイントを振り返って、今後を展望してみたいと思います。

### 【組織の運営について】

- ① 各活動班に副班長制を導入し、班長不在時等における実効性の向上をねらいました。但し、本当の意味での組織力、地域防災力の強化は「災害活動員」の大幅な増大を目指すしかないと思われまます。現在の60人から、数百人規模にまで増やすのが理想です。
- ② ご高齢世帯等「災害弱者」とされる方々への援助体制を強化するため、プライバシー保護を前提に、寄せられた「世帯情報」をどのように取り扱うか、の要領を定めました。
- ③ いざという時の救助活動や初期消火活動に必要な防災資機材については、徐々に整備されておりますし、その管理や保守の要領も確立しました。

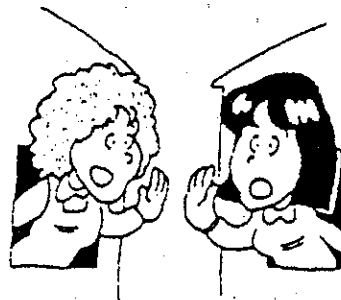
### 【災害の予防等について】

- ① 備え付けが義務化された住宅用火災警報器について、防災部から斡旋するよう検討中です。
- ② ご家庭の消火器についても、もう一度斡旋を、の要望がありますので、併せて企画いたします。
- ③ 防災意識と知識の向上のため、ご要望をお聞きしながら、講習会の開催も予定しております。

今年度も、「組織的な命の助け合い」「役立つ情報の提供」を主眼に2回の訓練を行いました。他所の自主防災部等からの見学があったり、消防署から、訓練内容に高い評価を受けたりしたことは、今後の励みに繋がったと思います。

### 【災害活動員募集！】

自分たちの大切な命や財産を守り、また災害に強い街づくりのため、たくさんの方の協力が必要です。  
是非一緒に活動しましょう。



講演

### 「いのちたいせつに 神戸からの教訓」

神戸・人と防災センター震災体験語り部

東田せつ子さん

2月10日 仰木の里市民センターでの講演からまとめました。

震災の朝、六甲山からのゴーツという音で起きあがったとたんに、体がとばされました。揺れがやんで夫と顔を見合わせたとき、夫はガタガタと震えていて、私に「大丈夫か」とも聞きませんでした。すぐ近くに息子がアパート住まいしています。走っていってみるとアパートは潰れていました。私は夢中で息子の名を呼び続けました。通りがかりの人や近くの生協のお店の職員に助けを求めました。皆が潰れかけた屋根に登り、わずかな隙間から懐中電灯の光をあてて息子を捜してくれ、息子は窒息寸前に助け出されました。震災では何人も大学生がアパートが潰れて亡くなりました。私は若い人に一人暮らしするようになったら近所の人に挨拶をしなさい、お祭りや地区の行事に参加しなさい、あなたがそこに住んでいるということを知ってもらいなさい、ということにしています。いつご近所に助けられるかもしれないのです。

震災での教訓は、家を丈夫にする、身を守るものを用意する、家族で集まる場所を決めておく、親族の電話番号を一つは暗記している、などです。そうして地域の間人関係を大切にしてほしいと思います。